

キャンパスマスタープラン2020の 策定について

大学キャンパスは、創造性豊かな人材の育成や高度な学術研究、医療活動を推進する場であり、地域貢献の場です。また、学生や教職員、卒業生には愛着や誇りの源であり、来訪者には社会的地位や投資価値を測る物差しの一つ、受験生には志望動機の一つとなります。このように、キャンパスは、大学のブランドや魅力を形成する重要な要素となっています。

21世紀に入り、社会の変化は加速しています。我が国の大学を取り巻く環境も、経済の低迷と国際競争力の低下、人口減少と少子高齢化の影響を受けて大きく変化しています。さらに近年は、度重なる自然災害や、新型コロナウイルス感染症等の経験を通して防災機能の強化や衛生対策の重要性が再認識されています。こうした変化を受け、社会からは大学の機能強化と、それに向けた大学ガバナンスの充実や組織再編等の改革が強く求められています。

本学では、こうした社会的ニーズへの対応やアカデミックプランを包括する「理念」と「目標」を掲げ、様々な課題に取り組んでいます。

キャンパスマスタープランは、本学の「理念」と「目標」を実現する場として相応しいキャンパスの姿やその整備の方向を示し、施設マネジメントを経営的視点から総合的かつ戦略的に推進し、キャンパスの付加価値を高め、創造的に再生する計画として重要です。

この「キャンパスマスタープラン2020」は、初回策定（2008年3月）から2回の改定を経た「キャンパスマスタープラン2015」の継承を基本として、これまでの検証を行うとともに、大学キャンパスに求められる新たな方向や課題を盛り込んだものです。

そのひとつに、国が「第5次施設整備5か年計画策定に向けた最終報告」に大きなテーマとして掲げた「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」の概念があります。単に掛け声に終わることなく、大学の諸活動（ソフト）と施設（ハード）をいかに繋いでいくか、具体的に示していくことが必要だと考えております。

我々が活動する富山の地は、立山連峰から富山湾の海底まで、高低差は4000mに及び、その地形がもたらす豊かで多様な自然環境に恵まれています。その自然と都市がコンパクトにまとまり共生していることが、大都市にはない、この地域の大きな特色です。

高い志を持つ多くの若い人たちが、このキャンパスに集い、それぞれのドラマの舞台として、このキャンパスを拠点として活躍することを期待します。

富山大学の強みや個性、特色を最大限に活かし、「夢があり個性きらめくキャンパスづくり」を皆さんと進めて行けるよう、今後ともご協力をお願いいたします。

令和3年3月

キャンパスマスタープラン
検討ワーキンググループ長
渡邊 了

